



日本弁理士会 副会長  
小森 久夫

## 混沌としたカオスの時代に 何をすべきか？

今月のことば

*monthly word*

平成 21 年 4 月 8 日の第 2 回執行役員会。弁理士登録者の総数が 8000 人になったとの報告があった。新しい時代に突入することを予感させる象徴的な数字であった。

8000 人に増大した会員には、様々な技術分野、社会分野で活躍している方、あるいは、先端技術分野の知見を持つ方などが増えてきているため、弁理士全体としては、適正な配置を行うことによりイノベーションを促進する上で必要なあらゆる技術分野、農業分野などに対応できる可能性が増してきた。日本弁理士会（弁理士会）では、このようなあるいはこれからも続くかもしれない弁理士数増大時代を予見して、これまでに、知財ビジネスアカデミー、著作権委員会、バイオ委員会、農林水産委員会等の設置を含む、専権業務のウイングを広げるための各種施策を行ってきた。

しかしながら、弁理士総数が急激に増大し、かつ周辺業務ができるような整備を行ってきたにもかかわらず、会員諸兄の素直な感覚としては、周辺業務の広がり不十分であるとの思いではなかろうか？

今後、それぞれの弁理士が自らの資質や知見等

を十分に活用して社会から期待される成果を出すにはどのような指針を持ち、努力をし、そして、仕事をしていくべきだろうか？

また、弁理士会は、会員のそれぞれが仕事を通じて幸福を追求でき、その結果として社会に貢献できるようにするためには中・長期的にどのような方向性と政策の軸を定義すべきであろうか？

まだ、副会長に就任してわずか 2 週間余りですので抽象的な言葉になってしまいますが、日頃思っていることを要約したいと思います。

### (1) 弁理士としての方向

出願総数が減少し周辺業務量が増えないにもかかわらず弁理士総数が急増していることから、特許事務所で仕事をしている弁理士にとっては弁理士競争社会になっていることは明白です。経済状況や産業状況も輻輳的に影響しますが、弁理士の再配置(地域的, 技術的, 経済的)が安定するまでは混沌としたカオス状態であると考えて差し支えないでしょう。このような状況では、業務を行う上で自らの相対的優位条件を活用することはもちろん重要なことではありますが、行動の指針として、私は、次の 2 つのことが重要であると思います。

### (a) 思考を止めない

技術革新は、確かに豊かな社会生活を可能にできていますが、反面、思考を止める副作用をもたらしています。なんでもグーグルで検索をして解決しようとするため、今日のような不況に直面すると厳しい競争社会をどのように生き抜いたら良いのか考えることができません。つまり全員が同じ結論を出すため、何かをしようとするときの障壁の高さに変化が生じません。実際、若い会員が一人で開業するという例がここ数年かなり少なくなってきたようです。

グローバル社会、スピード社会などと言われる変化の大きな波に耐え、カオス社会で生き残り、前進し、活躍していくには、「考える」という根本的な営みに眼を向けるべきであると思います。

### (b) 弁理士会に眼を向けよう

プラトンの「国家」によれば、民主制が高度に進んだ国家では、指導者が強力な指導力を発揮して国民に注文すると、彼を、寡頭制的な奴だと非難をし、反対に、力のない指導者であれば、彼を、つまらぬ奴だと罵る。その結果、民主的社会では、支配者は支配される人々に似た平均的な者に落ち着く。このような状況の延長上には政治に興味がない非政治層の異常な肥大化か、独裁的社会が考えられます。

現在の日本社会は無関心層が増加していると言われて久しいですが、上記のような状況にならないように、会員の皆様には、是非、会務活動に参加して、弁理士会に眼を向けて頂きたいと思いません。

### (2) 日本弁理士会の方向

海底に住んでいるホヤという生物は、一匹の親の体の一部から子ができ、その子からまた子が生まれるというようにして、体の一部が繋がった群体で組織されています。ホヤは、群体が大きいほど、一匹ごとの活動度が下がりにエネルギー消費が小さくなるといいます。つまり、大きな群体のホヤを分割してやれば、それぞれの群体の活動度が上がってくるわけです。

弁理士会をホヤに例えるのはおかしいのかもしれませんが、会員数が急激に膨張した弁理士会は、その変遷において革新的な組織変革があった訳ではないため、評価の仕方によっては、ホヤのように全体としての活動に効率低下の可能性があるといます。

中長期的視野に立てば、会員数 10000 名時代に相応しい弁理士会組織を見据えて、ここ数年はその準備のための改革をしていくことが必要であると思います。本年度執行部の事業計画で挙げている役員制度改革やビジネスサポートセンター設立構想などは、これと軌を一にするものです。

### (3) 最後に

カオス社会では過去は常に序章となりがちです。経済、産業、政治、金融、知財すべての世界において混沌としている今日では、今起きたことが安定、安寧に繋がることはないと考え、私たち皆で、反省と分析をし、思考をして、第 1 章を切り開いて行かなければならないと思います。